



プレスリリース

平成 29 年 2 月 15 日

【照会先】

国立障害者リハビリテーションセンター
企画・情報部企画課

課 長 西村 陽子（内線 2140）

係 長 長根 淳哉（内線 2150）

（代表電話） 04-2995-3100

報道関係者各位

国立障害者リハビリテーションセンター

国際セミナーの開催

**西太平洋地域の各国におけるリハビリテーションの発展と課題
—WHO障害に関する世界報告書—**

国立障害者リハビリテーションセンターはこの度、西太平洋地域におけるリハビリテーションに関する国際セミナーを開催いたします。

今回のセミナーではWHOで西太平洋地域の障害・リハビリテーションに関する活動を取りまとめている専門家による、WHOのリハビリテーションに関する活動方針についての基調講演、西太平洋地域のフィリピン、中国、香港、韓国、日本で障害がある人々のリハビリテーションに従事してきた専門家が、各地域においてどのようにリハビリテーションが発展してきたか、課題は何かを発表します。最後に発表者の方々によるディスカッションを通じて障害がある人々がリハビリテーションにアクセスできるようになるための課題を考えます。

国際セミナー

- 1 テーマ：西太平洋地域の各国におけるリハビリテーションの発展と課題
—WHO障害に関する世界報告書—
- 2 日 時：平成 29 年 2 月 18 日（土） 12：30～17：00
- 3 場 所：東京国際フォーラム ホールD7
- 4 主 催：国立障害者リハビリテーションセンター
（障害の予防とリハビリテーションに関するWHO指定研究協力センター）
- 5 参加者：本テーマに関心のある方
- 6 言 語：日本語、英語（日英同時通訳有）
- 7 参加費：無料

プログラム

12:30～12:35 開会挨拶 飛松好子 国立障害者リハビリテーションセンター総長

12:40～13:10 基調講演

「Me Again - 西太平洋地域におけるリハビリテーション -」

Darryl Barrett ダリル バレット

WHO西太平洋地域事務局テクニカルリード

WHO 西太平洋地域事務局の障害・リハビリテーションに関する専門官として
WHO のリハビリテーションに関する行動計画、考え方を紹介する。

13:15～15:40 発表

1. 「障害にとらわれずに生きる取組み」

Josephine R. Bundoc ジョセフィーヌ ブンドック (フィリピン)

フィリピン大学総合病院リハビリテーション部コンサルタント

医師としてフィリピンにおける義肢装具の発展・人材育成を中心に活動する
とともに国際機関、障害者団体等、多くのフィールドで障害がある人々のた
めの活動に従事しており、現在取り組んでいるプログラムについて紹介する。

2. 「“セルフマネジメントプログラム” が香港のリハビリテーションにもたらした
もの」

Peter King-Kong Poon ピーターキングコング プーン (香港)

香港リハビリテーション協会副会長

WHO 指定研究協力センターであり、香港において地域レベルからリハビリテ
ーションを担っている香港リハビリテーション協会 (NGO) の取組を紹介す
る。

3. 「中国におけるリハビリテーション施設の発展と中国リハビリテーション研究セン
ターの取組み」

Limin Liao リャオ リミン (中国)

中国リハビリテーション研究センター泌尿器科部長

中国リハビリテーション研究センター(北京)はリハビリテーション医療、研究、人材育成を担う中国の中心施設である。中国におけるリハビリテーションの発展・課題を紹介する。

4. 「韓国における障害とリハビリテーションー現在、そして我々が向かうところー」

Boram Lee イ ボラム (韓国)

韓国国立リハビリテーションセンター保健・リハビリテーション部門医療長

韓国国立リハビリテーションセンター(ソウル)はWHO 指定研究協力センターであり、リハビリテーション医療、研究開発の中心的施設の医療部門長として韓国のリハビリテーションの現況、今後の課題について紹介する。

5. 「横浜市における在宅リハビリテーション:今までの30年、これからの10年」

高岡 徹 横浜市総合リハビリテーションセンター副センター長

各国のリハビリテーションの発展と課題の発表において、日本において自治体レベルの地域に根ざしたリハビリテーションを実践する施設としての立場から発表を行う。

6. 「日本における障害者の実態とリハビリテーションの課題」

飛松好子 国立障害者リハビリテーションセンター総長

国立の総合的なリハビリテーション施設として、リハビリテーション医療、職業・生活訓練、研究開発、人材育成等を行っている。日本における障害者の現況とリハビリテーションの役割について発表する。

15:55～16:55 ディスカッション・質疑応答

16:55～17:00 閉会挨拶 飯島 節 国立障害者リハビリテーションセンター
自立支援局長

世界保健機構（WHO）指定研究協力センターおよび障害に関する世界報告書について

WHO指定研究協力センター

国立障害者リハビリテーションセンターは、平成7年5月11日付で「障害の予防とリハビリテーション」に関して、WHO指定研究協力センターの指定を受けて以来、リハビリテーションの分野でWHO事業に協力をしてきた。

※ 世界保健機構（WHO）は、独自の研究機関を持たないため、世界の一流研究機関を、WHO指定研究協力センターに指定し、常に最新の医学知識を得ると共に、研究員の受入れ、専門家の派遣等WHO事業に協力を依頼している。

国立障害者リハビリテーションセンターは平成28年10月に6度目の指定（指定期間：4年）を受け、引き続きリハビリテーションの分野でWHO事業に協力している。

障害に関する世界報告書

2011年にWHOが世界銀行が共同で発行した。2008年に発効された国連障害者権利条約の実施を促進することに役立つ障害に関する国際的な報告書として作成されたものである。第4章ではリハビリテーションについて、障壁、リハビリテーションを構成する要素についての分析、リハビリテーションを必要としている人が利用できるようにするための提言が述べられている。